

## 血漿成分製剤(新鮮凍結血漿)の使用量について

## 【現 状】

- 平成19年1月、保存前白血球除去の導入に伴い、新鮮凍結血漿の規格単位が1.5倍量に変更されたところ。
- 新たな規格の製品(FFP-LR)は、貯留保管を経て平成19年8月より供給が開始されている。
- この供給開始に時を同じくして新鮮凍結血漿の使用量が増加している(図-1)。一旦は減少したが再び増加に転じ、その後減少傾向が見られない。
- 一方、新鮮凍結血漿の使用本数は年々減少しているものの、その使用量は増加している(図-2 及び 図-3)。  
→ 平成19年の上半期まで1単位製剤、2単位製剤であったものが、平成19年の下半期以降、それぞれ1.5単位製剤、3単位製剤となっている。

## 【論 点】

新鮮凍結血漿の一層の使用適正化を図るべきではないか。

- ◎ 各医療機関への一層の適正使用推進の呼びかけ等が必要ではないか。
- ◎ 規格単位の変更について、医療現場に対する情報提供はどうであったか。

万単位 (80mlを1単位とする)

図1 FFP供給単位数の推移 (H18- H21.4)

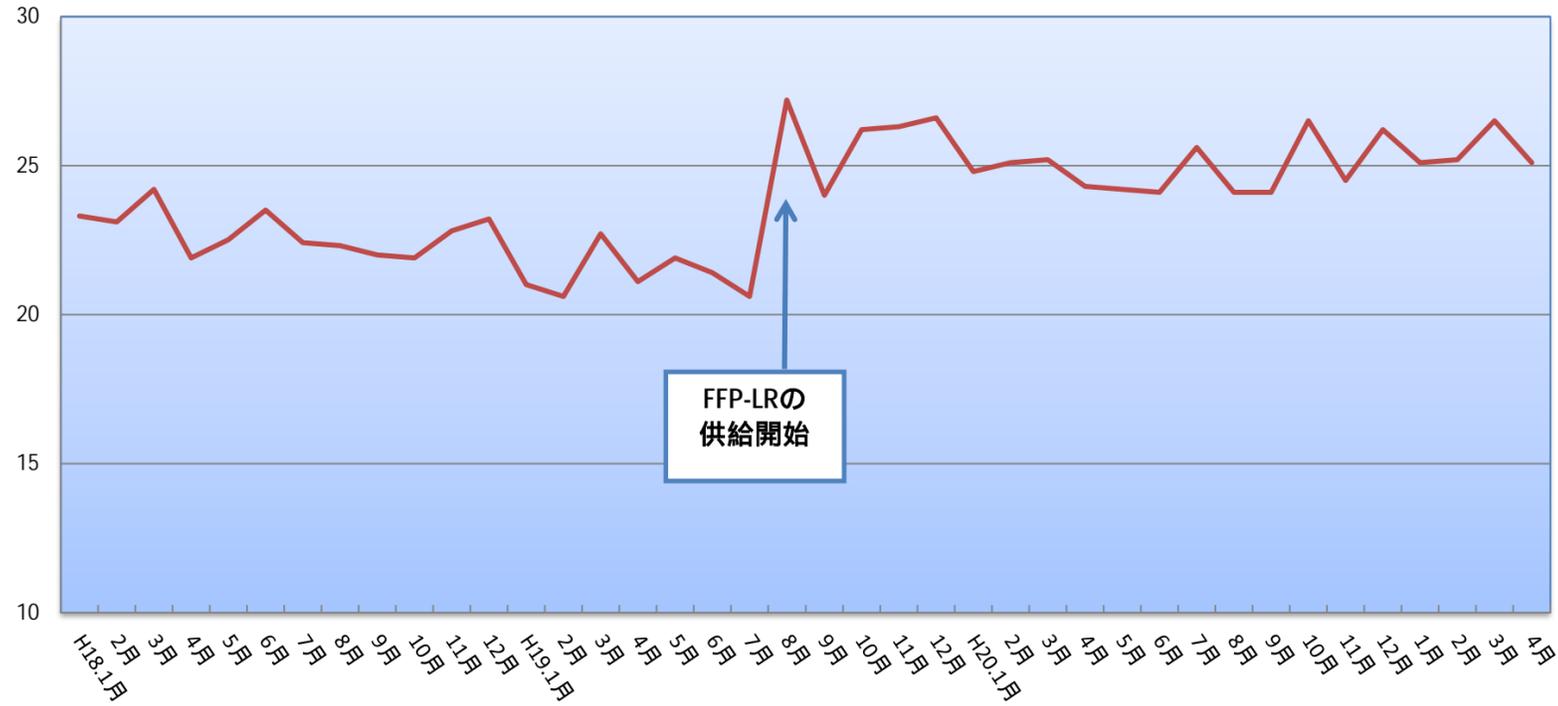


図2 単位別FFPの供給本数

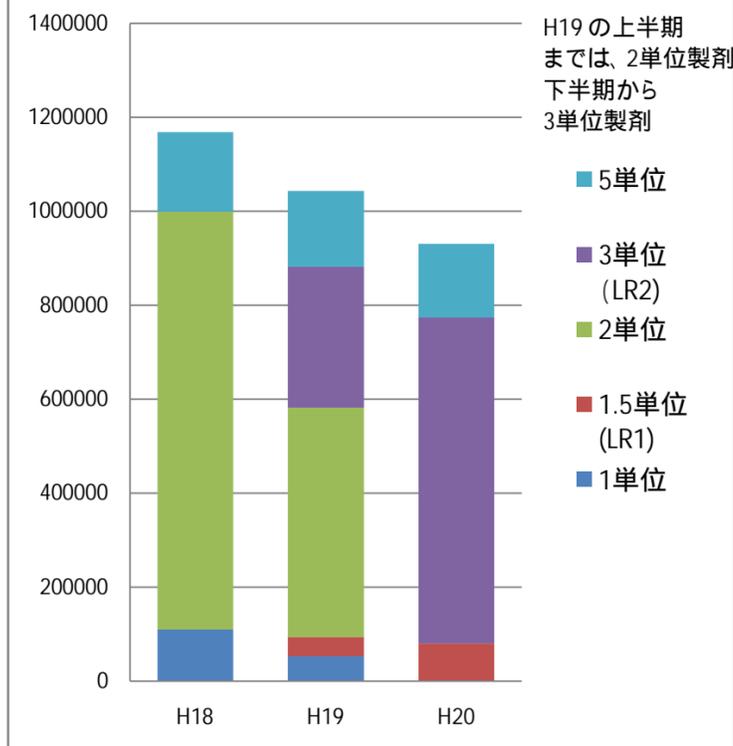


図3 単位別FFPの供給量

